

〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉 2018年 助成団体活動成果レポート

特別助成団体

一般 鹿角紫根染・茜染研究会 社団法人

秋田県鹿角市

プロジェクト名

伝統の紫根染・茜染彩る街かづの 「古代鹿角紫根染・茜染の復活とかづの紫草の栽培」

■地域の紹介

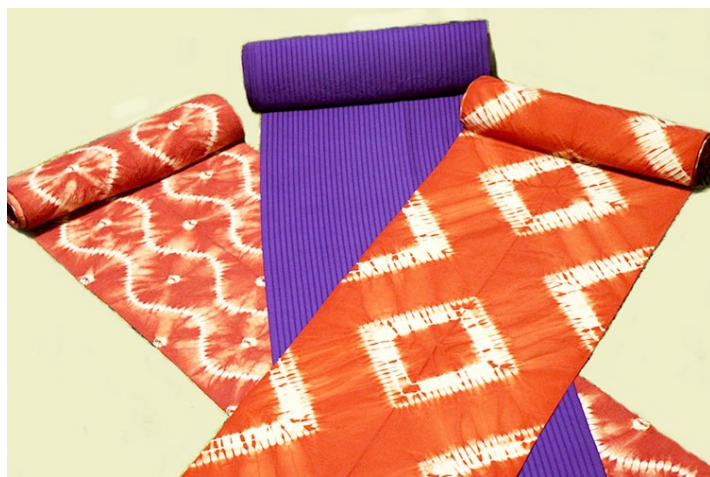
鹿角市は、秋田県北東部に位置しており、青森県・岩手県に隣接しています。本州最北端となる十和田八幡平国立公園を有し、縄文遺跡として有名な大湯環状列石をはじめとする歴史遺産も豊富。秋田名物「きりたんぼ」発祥の地としても知られています。

■地域の課題

鹿角地方にはその昔、自生するムラサキやアカネが豊富だったことから、奈良時代からその根を原料として染める紫根染や茜染の技法が伝承されてきました。その紫色、茜色は大変鮮やかで、江戸時代に藩の保護を受けて発展し、朝廷や将軍家への献上品とされました。しかし明治時代以降、化学染料の普及等によって衰退し、平成初期にその伝統は途絶えてしまいました。この紫根染・茜染を復活させ、いかに地域の活性化に生かしていくかが課題となっています。

■当団体の紹介

奈良時代から伝わり、1991年に途絶えてしまった鹿角紫根染・茜染の復活と伝承を目指し、古代技法の研究や後継者育成、染料となる絶滅危惧種「日本ムラサキ」の栽培に取り組んでいます。将来的には「鹿角紫根染・茜染」の特産品化、文化的なまちづくり、商店街の賑わいづくりや観光誘客を目指しています。





■背景・目的は？

当研究会は、これまで会員間での技術交流を図りながら鹿角紫根染・茜染の復活を目指し、次世代を担う子どもたちに伝える活動や、体験教室の開催等により継承活動を進めてきました。また、商店街のアーケードにタペストリーを飾るイベント等を繰り広げながら、伝統文化の輪を紡いで後継者育成にも努めてきました。

今回のプロジェクトでは、古代鹿角紫根染・茜染の後継者育成と日本ムラサキの栽培に取り組み、伝統の紫根染・茜染彩る街づくりを通して地域の活性化を図ることを目指しました。

■具体的な活動は？

1. 平成初期に途絶えた古代技法の習得

(1)120回の下染め作業（2019年5月23日～10月9日、場所：鹿角紫根染・茜染工房とその庭、参加者：8名）

4ヶ月の間晴天の日に、反物を樅の灰で作った汁に浸しては干し、浸しては干しの作業を120回繰り返しました。（反物は桐の箱に寝かせ、秋の本染めに備えます）

(2)茜染の本染10回（2019年11月30日、場所：鹿角紫根染・茜染工房、参加者：7名）

鹿角産の日本アカネを使い、白でついて染める作業工程に取り組みました。

一日いっぱいの本染め作業でしたが、下染めを繰り返した布が夕茜色の鮮やかな色合いに染まり、植物の恵みと先人の努力と工夫を肌で感じることができました。

(3)染色研究（場所：八幡平市民センター）

【会員の参加人数】

2019年 4月14日：5名、5月7日：4名、6月24日：5名、10月14～17日：21名

2020年 1月26日：5名、2月3日：5名、2月10日：6名、2月11日：5名、2月27日：6名、3月12日：6名、3月16日：7名

後継者育成のために、古代染めの基本的な作業である湯通しや樅の灰で作る汁の作り方、下染め、本染め等の工程を学び、会員相互の技術交流に努め技術の習得に取り組みました。充実した染色研究ができ、会員たちに自信と笑顔が見られるようになりました。

2. 後継者育成のための体験教室の実施

鹿角の伝統文化を感じながら、楽しく学べる草木染体験教室を開催し、研究会のメンバーがムラサキやアカネを染料としたオリジナルのストール作りを指導しました。

- | | | | |
|-------|---------|-----|------------------------|
| 2019年 | ・6月16日 | 紫根染 | 八幡平市民センター |
| | ・7月14日 | 茜染 | 花輪市民センター（文化の社交流館コモッセ内） |
| | ・8月3日 | 茜染 | 道の駅おおゆ |
| | ・9月29日 | 紫根染 | 八幡平市民センター |
| | ・10月19日 | 茜染 | 道の駅おおゆ |
| | ・11月9日 | 茜染 | 花輪市民センター（文化の社交流館コモッセ内） |
| 2020年 | ・3月8日 | 茜染 | 八幡平市民センター |
| | ・3月10日 | 茜染 | 花輪市民センター（文化の社交流館コモッセ内） |
| | ・4月29日 | 茜染 | 道の駅おおゆ |
| | ・5月3日 | 茜染 | 道の駅おおゆ |
| | ・5月19日 | 紫根染 | 花輪市民センター（文化の社交流館コモッセ内） |



3. 染料確保のための日本ムラサキの栽培

栽培農家6カ所と花輪ロータリークラブ、比内支援学校かつの校等の協力を得て、日本ムラサキの栽培に取り組むことができました。秋には色づいたムラサキの根を掘り上げることができ、試行的に染色実験を行いました。鹿角の土で栽培したムラサキの根を実際に使用する形で鹿角の古代染技法を学ぶことができ、復活への大きな弾みになりました。また、ムラサキを栽培する際の参考とするため、日本ムラサキの栽培地を視察したことも、後の栽培の際に大変役立ちました。

2019年 ・4月15、16日 芽だし作業
・5月～7月11日 植え付け
・9月17～18日 先進地視察（日本ムラサキの栽培地）
・11月5、27、28日 掘り上げ作業

2020年 ・1月21、22日 栽培プロジェクトによる日本ムラサキの染色実験

4. 鹿角産の日本アカネの栽培とサワフタギの栽培

日本アカネの栽培に試験的に取り組み、日本アカネの栽培はそれほど難しくないことを確認できました。

サワフタギの木は、今では鹿角の野山で見つけることが容易ではなく、栽培をする場合、苗を購入する必要があり、今年度は資金面の理由から断念しました。



120回にも及ぶ下染め作業



染色研究の様子



日本ムラサキの染色研究



紫根染・茜染彩る街かつの染め体験

■活動の成果は？

1. 平成初期に途絶えた古代技法の習得

- 古代鹿角紫根染・茜染の復活に欠かせない120回の下染め作業を会員の8名で進めることができたため、復活実現に向けて大きな一歩を踏み出すことができました。
- 鹿角で栽培した日本ムラサキの根を使い、古代染めの本染ができるようになったことは大きな収穫でした。
- 定期的に染色研究を行うことができたので、会員の技術力向上に繋がったことに加え、商品作りができる会員も増えました。

2. 後継者育成のための体験教室の実施

- 全11回の体験に県内外をはじめ外国からも参加があったことで、会員にとっても大きな励みになり、地域活性化に貢献できたと思っています。
- 体験の指導者や、スタッフとして体験に関わることにより、これまで以上に会員同士の技術交流が深まり、技術を高めることができました。
- 会員は体験の講師陣として活躍する場ができたことにより、鹿角の伝統文化に対する意識や継承活動への意欲が増し、生きがいを感じながら活動する喜びを実感できました。

3. 染料確保のための日本ムラサキの栽培

- 長年、日本ムラサキの栽培について会員が個人的に研究を続けてきましたが、助成金により研究会として大幅に畑を拡張でき、本格的に日本ムラサキの栽培に取り組むことができました。
- 栽培の場所ごとの違いや芽だしの仕方、畝づくり、土作りの仕方等を会員間で共有することができました。
- 鹿角で栽培した日本ムラサキを使い古代染の研究を進めることができたことは大きな前進であり、復活への自信につながりました。

4. 鹿角産の日本アカネの栽培とサワフタギの栽培

- 日本アカネを栽培することについて見通しが立ちました。
- サワフタギの栽培については、苗の購入に係る資金ならびに栽培する土地の確保が課題です。

5. プロジェクトの実施によって地域内にもたらされた効果

- 「紫根染・茜染彩の街かづの染め体験」や栽培の取り組みなどメディアに取り上げていただく機会が増え、地域の方々に応援や励ましの声を頂く機会が多くなり会員の志気が高まりました。
- (株)鹿角ホテルの協力により鹿角紫根染・茜染の展示・即売会を開催することができ、県外や秋田市、能代市、大館市等からも多くの方々に足を運んでいただけました。(4月27日～5月6日)
- 秋田県の女性法人会全県大会からも展示・即売の要請があり、ホテル鹿角を会場に実施することができました。(9月6日)
- 販売先が新たに3カ所増え、販売力も向上しました。

また、助成金により以下のような充実した活動ができ、復活へ向けて大きく前進できました。

- 鹿角紫根染・茜染の古代染めに力を入れることができ大きな成果が見られ、復活宣言を2021年3月27日～29日、秋田市アトリオンにて行う計画を進めています。
- 鹿角紫根染・茜染の認知度が高まり、体験には遠くカタルやミャンマー、中国、また、国内では関東方面から参加してくださる方もおり、古代の技と彩りを楽しみ理解を深めてもらえました。また、大阪市で草木染めに40年間取り組まれている方も古代染めの体験に参加され、「鹿角の古代技法による紫根染めは全国ただ一つの貴重な染め物、日本一です」と賞賛の声を頂戴しました。
- 参加者の中から新たに会員になる方が現れたほか、県内外から復活を望み応援して下さる方も増え、会員数が増えました。(32名の会員が60名に増加)
- 一般社団法人鹿角紫根染・茜染研究会のパンフレットを作成することができ、研究会の活動を多くの方々に周知できました。パンフレットは体験募集の際も活用し、当会の大きなステップアップにつながりました。また、商品の説明カードや認定カード等も作成し、PRしたことにより、販路が新たに3カ所増え販売力が向上しました。
- 助成を受けたことにより、先進地視察を実施でき大きな収穫がありました。また、日本ムラサキの栽培プロジェクトを実施したことで2020年度以降の栽培に明るい見通しが持てるようになりました。本格的に古代染めの復活実現への目処が立ったことは最高の喜びです。
- 他県から移住してきた会員も古代技法の後継者を目指し、会員同士の交流を楽しみながら技術の習得に励んでいます。
- 埼玉県小川町の「紫草と万葉の花展」から依頼を受け、日本ムラサキで染めたタペストリーをメインの展示品として飾っていただきました。展示コーナーにおいても鹿角の紫根染・茜染研究会の活動を紹介することができ、参観者にPRするよい機会となりました。商品即売も行えたため、会員の商品づくりに対する意欲向上にもつながりました。(2019年5月25日～6月2日開催)



ホテル鹿角における展示・即売会



日本ムラサキの栽培



掘りあげたムラサキの根



栽培したムラサキの根を染料にした古代染

団体からのコメント

崇高優美な古代鹿角紫根染・茜染を復活させる見通しが立ったため、今後はその実現に向けて精一杯頑張りたいと考えております。また、日本ムラサキの栽培プロジェクトを充実させることで、より鮮やかな紫色を出すことができるムラサキの根を栽培できるよう研究を重ねるとともに、さらに販売力をアップできるよう染色技術を高め、後継者の育成にも注力していきます。

具体的には、以下の2点を目標に掲げ、活動してまいります。

1. 古代鹿角紫根染・茜染の染料となる絶滅危惧種の日本ムラサキの栽培をより充実させ、鹿角紫根染・茜染が地域の特産品となることを目指し、地域産業化につなげていきます。
2. 「紫根染・茜染彩る街かづの染め体験」の参加者がさらに増えるように工夫し、商店街の賑わいづくりや、鹿角地域の宿泊施設や道の駅とタイアップした活動を通して観光誘客に貢献します。

